

愛知県農林水産業の 試験研究基本計画 2020



平成28年3月



(愛知県農林水産技術会議)

はじめに

愛知県では、平成 16 年4月に施行した「食と緑が支える県民の豊かな暮らしづくり条例」が目指す「安全で良質な食料等の供給確保と森林・農地等が持つ多面的機能の発揮による安全で良好な生活環境の確保を通じた県民の豊かな暮らし」の理念の実現に向けて、平成 28 年3月に「食と緑の基本計画2020」を策定しました。

この基本計画では、施策の柱の一つとして「競争力の高い農林水産業の展開による食料等の安定的な供給の確保」を掲げ、あいちの強みを生かした技術による品質や生産性の向上を始めとした取組を総合的かつ計画的に推進していくこととしております。

本県は、農林水産業と商工業がバランス良く発展し、産地と大消費地が隣接しているといった強みや特徴を有しています。

農林水産業の試験研究については、「モノづくり技術」を始めとした幅広い産業分野が有する先端技術等を活用し、国立研究開発法人や民間企業、大学などの研究機関との共同研究も行いながら、品質や生産性を向上させる技術の開発を加速化し、現場への速やかな普及を図ることが期待されています。

また、大消費地を抱える立地条件を生かし、消費者・実需者の多様なニーズに応える品種の開発や高収量、低コスト、気候変動への対応など生産性の向上や安定生産に向けた品種の開発が求められています。

この「愛知県農林水産業の試験研究基本計画2020」は、「食と緑の基本計画2020」に即し、平成 32 年度までの5年間に農業総合試験場、森林・林業技術センター、水産試験場が取り組む試験研究の重点研究目標や研究事項等を取りまとめたものです。具体的な試験研究課題や品種の開発にあたりましては、効率性、迅速性、成果の具体化等を念頭に置き、毎年度、生産者や農林漁業団体等からの現場の要望をお聞きしながら、柔軟かつ積極的に対応してまいりますので、よろしくお願いいたします。

平成 28 年 3 月

愛知県農林水産部長 加藤 正人
(愛知県農林水産技術会議会長)

目 次

第1章 試験研究基本計画策定の背景と方針	1
第2章 本県農林水産業試験研究の推進方向	3
愛知県農林水産業の試験研究基本計画2020体系表	4
農業部門	5
(1) 農業の現状と課題	9
(2) 研究の現状と今後の課題	11
(3) 重点研究目標と研究事項	14
付表：研究事項と達成目標	23
林業部門	33
(1) 森林・林業の現状と課題	37
(2) 研究の現状と今後の課題	37
(3) 重点研究目標と研究事項	40
付表：研究事項と達成目標	42
水産業部門	45
(1) 水産業の現状と課題	49
(2) 研究の現状と今後の課題	49
(3) 重点研究目標と研究事項	52
付表：研究事項と達成目標	58
第3章 研究推進のための方策	62
1 研究開発基盤の機能強化	62
2 研究企画運営の機能強化	65
3 研究成果の迅速な普及	67
4 各研究機関が持つ機能の見直しと強化	67
愛知県農林水産業の試験研究基本計画（2016～2020）策定要領	70

第1章 試験研究基本計画策定の背景と方針

愛知県では、将来にわたる安全で良質な農林水産物の安定的な供給の確保並びにその適切な消費及び利用、森林等の有する多面的機能の適切かつ十分な発揮による安全で良好な生活環境の確保を基本理念とする「食と緑が支える県民の豊かな暮らしづくり条例」を、平成16年4月に施行した。この条例に基づき、食と緑に関する施策の基本的な方針として平成17年2月に「食と緑の基本計画」を、さらに平成23年5月に「食と緑の基本計画2015」を策定し様々な取組を進めてきた。

これに基づき、農林水産試験研究分野の専門計画として、平成27年度を目標年度とする農林水産試験研究が目指すべき基本的方向や取り組むべき課題並びに研究成果の達成目標を明らかにした「愛知県農林水産業の試験研究基本計画2015」（以下、「前試験研究基本計画」という。）を、平成23年5月に策定し、各試験研究を推進してきた。

前試験研究基本計画において、各部門で以下に掲げる様々な研究成果を上げることができ、「食と緑の基本計画2015」の実現に寄与してきた。

1 農業部門

病害抵抗性を持つ稲や野菜、日持ち性が極めて良い花きの新品種や施設園芸で安定して高収量を得るための環境制御技術、病害虫を簡易・迅速に診断する技術の開発等

2 林業部門

低コスト造林や獣虫害防除技術の開発、海岸林や竹林の整備技術の開発、木材の低質材利用や低コスト乾燥技術の開発、病気に強い無胞子のきのこ系統の作出等

3 水産業部門

水産資源の管理手法や増殖・養殖技術の開発、伊勢・三河湾の漁場環境回復技術の開発、高水温耐性を持つノリ品種や付加価値の高いキンギョ品種の開発等

平成28年3月に策定した「食と緑の基本計画2020」では、「幅広い分野の先端技術等を活用した技術の開発」及び「幅広い需要に応える戦略的な品種の開発」を主要な取組とする方針を打ち出し、この基本的な方針に即し、農林水産試験研究を適切に推進するため、平成32年度を目標年度とする「愛知県農林水産業の試験研究基本計画2020」（以下、「試験研究基本計画」とする。）を策定した。

策定に当たっては、前試験研究基本計画に定めた重点研究目標ごとの達成状況や研究推進のための方策を検証・評価し、各試験研究部門の現状と今後取り組む課題を明確にした。

また、研究成果の迅速な普及を図ること、国、大学、民間等との積極的な連携・協力を進め産学官の知見を結集し、戦略的で体系的な計画となることを目指した。

なお、試験研究基本計画は、国の「食料・農業・農村基本計画」、「農林水産研究基本計画」、「森林・林業基本計画」、「水産基本計画」、「農林水産省知的財産戦略2020」、本県の「あいちビジョン2020」、及び「あいち科学技術・知的財産アクションプラン2016-2020」の目標や方向性との整合性を図った。

第2章 本県農林水産業試験研究の推進方向

愛知県農林水産業の試験研究基本計画2020体系表

食と緑の基本計画

重点研究目標

研究事項(技術37 品種7)

幅広い分野の
先端技術等を
活用した技術
の開発

【農業部門】

技術革新で創造する強い農業経営
の確立(4)

消費者視点に立った新たな需要創出と
食の安全を支える農業の推進(2)

環境と調和した農業の推進と
農村・地域の活性化(3)

【林業部門】

地域に即した森林環境保全・管理
システムの開発(2)

県産木材の多用途化のための
木材利用技術の開発(3)

地域の特用林産物の有用性の向上
(2)

【水産業部門】

多様な生態系を育む内湾環境の創出
(4)

水産資源の合理的な漁獲による
持続的利用(6)

環境変化に対応した増養殖技術による
安定的な漁業生産の実現(5)

内水面水産資源の維持・増大と
養殖技術の高度化(6)

幅広い需要に
応える戦略的
な品種の開発

愛知の強みを生かした戦略的な品種
開発による幅広い需要への対応(7)

- 高い生産性で高収益農業を実現する技術の開発
- 競争力の高い低コスト生産技術の開発
- 生産環境の変化に対応できる高品質安定生産技術の開発
- 次世代技術を活用した革新的生産技術の開発
- 消費者・実需者のニーズに応える生産技術の開発
- 安全で信頼に応える農業生産を実現する技術の開発
- 環境に配慮した持続的農業技術の開発
- 地域の環境保全と資源の活用を図る技術の開発
- 中山間等地域農業の活性化を目指した技術の開発
- 低コスト・高効率な森林管理技術の開発
- 森林被害の予防・軽減技術の開発
- 県産木材の性能評価及び利用技術の開発
- 木製構造物の耐久性評価技術の開発
- 未利用樹種の利用技術の開発
- 食品としての価値の高いきのこ栽培技術の開発
- 愛知県産特用樹種の活用
- 内湾環境のモニタリングと情報発信及び予察による漁業被害軽減技術の開発
- 貝類の毒化がもたらす漁業被害を軽減させる技術の高度化
- アサリ稚貝大量発生機構の解明及びアサリ稚貝発生場の造成技術の開発
- 貧酸素水塊や硫化水素が生物に及ぼす影響の解明及び被害軽減技術の開発
- 渥美外海及び内湾における海況モニタリングと情報発信
- 多獲性浮魚類の資源量予測の精度向上と資源管理手法の開発
- 環境変化や生態を考慮したイカナゴ資源管理手法の高度化
- 環境や生態を考慮した底生生物資源の資源管理手法の開発
- 資源への影響を低減する小型底びき網の漁具及び曳網方法の開発
- 効果的な漁場整備のための魚礁効果調査
- 藻場の再生技術の開発
- アサリの安定生産技術の開発
- 環境変化に対応した種苗放流技術の開発
- 生態を考慮した栽培漁業技術の開発
- 環境変化に対応した藻類養殖技術の開発
- ウナギ資源増大のための放流技術の開発
- 再生産を考慮したアユ資源の維持・増大技術の開発
- ウナギ人工種苗生産技術の開発
- 「絹姫サーモン」の生産管理手法の開発
- サツキマスの新たな養殖技術の開発
- 養殖魚の防疫体制の確立と食品としての安全性の確保
- 競争力の高い水田農業を確立する水稻・小麦品種の開発
- 全国屈指の施設野菜産地を活性化する品種の開発
- 日本一の花き産地を支える品種の開発
- 多様な消費者ニーズに応え産地を強化する果樹品種の開発
- 愛知のブランド力を高める系統豚・名古屋コーチン系統の開発
- 低コスト栽培に適したきのこと品種の開発
- 産地の競争力を高めるノリ及びキンギョの品種開発